

# 豊海町集合住宅プロジェクト

概要：東京都中央区の豊海町における集合住宅のあり方を提案するプロジェクト。豊海町は1963年に完了した埋め立て工事による人口島であり、現在は水産関連の冷蔵倉庫が多くあるエリアである。



問題意識：このプロジェクトの根底にある問題意識は大きく以下の通りに分類できる。①水の扱い方 ②水と人の関係③産業と住まいの関係。



提案内容：手と手を組む時のように、住宅と水を細切りにして交差させることで、水と人の良好な関係を取り戻すという提案。運河の眼前にあり、築地の向かいにあるという敷地の性格を読み込み、水を中心に産業と住空間が配置された変化に富んだ豊かな都市の形成法を提案している。具体的な都市プランというよりも概念的な提案が多く、住宅のディテールに関しては扱っていない。



現在（2014）における意義：東日本再震災を通して、水（海）と都市との関係が大きな課題となっている。豊海町プロジェクトで提案されている”水に対する人の姿勢”、”水と人の関係性”は現在においても大いに参考とすべきものが含まれていると言える。



介入方法：水の”移ろいやすい”という特性に着目し、その”移ろいやすさ”をプロジェクトのプレゼンテーションに反映させるたプレゼン方法を提案し、これを介入とする。このプロジェクトの肝は、水の”移ろいやすさ”を許容できるかということにあるのではないかとこの考察による。水の物理的な扱い方とともに、水を扱う側の姿勢も見直す必要があると感じている。

